

労山コーナー

2018 年度京都連盟交流会を終えて

本年度の交流会（11月17日～18日）は天気に恵まれ、無事終了しました。

17日（『友愛の丘』にて）の参加者は講演会 120名、懇親会 74名でした。

講演会の詳しい内容は教育遭難対策委員会により別途報告されています。



←交流会受付



講演会会場

懇親会は野外でバーベキュー。夜の冷え込みを心配しましたが、さすが山の会、寒さ対策も万全で大いに盛り上がりました。席を移動してビール片手に歓談する会員の姿があちこちで見られ、中には、山本先生の席に質問に行った人もいました。マイク・アンプの設置も好評で、開閉会時の合唱の他、“うたごえ”も開催となりました。ギターを弾く人、マイクを持って熱唱する人（山本先生の歌声も聞かれました）、指揮する人、一緒に歌う人等、それぞれ



懇親会

『友愛の丘』事務所からは、「他の宿泊客に迷惑がかかるのでもっと音量を下げてください。昼間はともかく、夜にこんなに盛り上がっているのは初めてです。」と注意されました。音量を心持ち抑えたつもりでしたが。

差し入れの日本酒や焼酎はきれいに無くなり、お替わり用の買い上げビールも完売しました。食べきれない肉や野菜はお持ち帰り、手が付けられずに残ったおにぎりやミカンは翌日の交流山行用の食料になりました。

参加者は、食べて、飲んで、語って、歌ってと、存分に楽しんでもらえたと思います。

翌18日の交流山行参加者（宿泊組と当日組を併せて）は、クライミング19名、山背古道15名、らくなんトレイル35名でした。この結果、両日合わせた交流会参加者は140名に達しました。

クライミングコースは宇治方面で実施。山背古道コースは、友愛の丘（出発地）～城陽五里五里の丘（木津川運動公園）～JR長池駅（当日組集合場所）～中天満神社～谷川ホテル公園～井手町まちづくりセンター椿坂～蟹満寺～JR棚倉駅～JR木津駅 でした。また、らくなんトレイルコース①は、宇治川の橘島（集合場所、通称：塔の島）～宇治上神社～大吉山（仏徳山）～朝日山～志津川～（台風による倒木のため、尾根コースではなく車道）～喜撰山ダム湖畔～喜撰洞～喜撰山～天ヶ瀬森林公園～天ヶ瀬ダム～天ヶ瀬吊り橋～橘島 でした。



山背古道（JR棚倉駅）



らくなんトレイル①（天ヶ瀬ダム）

2018年度の交流会は南部ブロック1の3つの山の会（山城山の会、京都田辺山友会、らくなん山の会）が担当、講演会については京都連盟の教育遭難対策委員会が主催しました。関係者の皆さん、大変ご苦労様でした。

また、この報告書の作成に際し、写真を快く提供いただいた方々に感謝いたします。

2019年度の交流会は、南部ブロック2（乙訓山の会、西山ハイキングクラブ、伏見山の会）の担当になります。よろしく願いいたします。

中塚光史（交流会担当）

女性委員会雪見山行 案内

マキノ 赤坂山（823.8m）

ワカン、スノーシューの入門コースです。スキー場から景色を楽しみながらゆっくり歩きましょう。女性委員会ですが、男性の方の参加者歓迎します。

日 時 2月10日（日） 荒天中止

集 合 JR京都駅、湖西線（3番ホーム） 7:15 集合、7:24 発の永原行に乗ります。

マキノ駅下車、マキノから9:06のバスで、さらさ9:24着

コース マキノスキー場～ブナの木平～栗柄越～赤坂山

同じコースを戻ります（歩行約4時間半）

装 備 日帰り装備 寒さ対策（冬用手袋、帽子、サングラス、ストック等）6本爪以上のアイゼン、ワカン又はスノーシュー

申 込 C L 小室澄枝（乙訓山の会）

TEL/FAX 075-934-6795 携帯 090-6915-9562

携帯メール komuro58302@kpb.bigrobe.ne.jp

京都府勤労者山岳連盟 「第54期定期総会」のご案内

京都府勤労者山岳連盟の「第54期定期総会」を下記のとおり開催します。
京都府勤労者山岳連盟では、加盟各会・クラブの連携のもとに「豊かな登山文化の発展」と「安全登山思想の普及」をめざして、活発な活動を展開しています。各会・クラブの大きな力により、会員数は1000名を維持することができました。労山活動を一層推進し、発展させるために、加盟各会・クラブの皆さんの活発な議論をお願いします。

下記のとおり開催します 各会・クラブのみなさんのご出席をお待ちしています。

記

日 時 2019年3月3日(日) AM10:00～PM4:30 (開場9:30)

会 場 京都府中小企業会館 京都市右京区西院東中水町17番地 (西大路通り五条下がる東側)

電話 075-314-7171

- ・代議員登録、理事推薦は、2月20日までに
- ・定期総会終了後、例年通り「懇親会」を予定しています。あわせてご参加ください
- ・議長は、京都田辺山友会・舞鶴山遊会。書記は丹波労山・西山HC、選管は右京労山・洛中労山

「ココヘリ」の紹介

京都府勤労者山岳連盟
理事長 坪山 芳樹

行方不明者を無くす。そんな画期的な検索グッズ、「ココヘリ」の利用が広がっています。京都連盟の皆さんに紹介させていただきます。

1. ココヘリとは――遭難者の早期発見と早期救助のサポートがミッション

- (1) 会員制のヘリによる遭難者の捜索と遭難位置特定サービス（救助は警察消防）
- (2) ヘリにより空から捜索して、早期にピンポイントで遭難者発見の可能性が格段に向上
- (3) 警察消防への情報提供、情報共有で早期に遭難者救助の可能性が格段に向上

2. ココヘリの優位点（山岳保険では出来ないこと）

- (1) 遭難した場合に生還の可能性が格段に向上する。山中行方不明も皆無に近づく。
- (2) 自力下山不能の遭難者が、携帯圏外、携帯電池切れ故障、大ケガ、重病等で 110 番、119 番通報できない場合に家族からの連絡でココヘリが警察消防に情報提供して捜索方法協議。ココヘリ捜索ヘリ、又は、ヒトココ親機保有の警察消防捜索救助ヘリ、又は、双方のヘリ出動
- (3) 遭難者や遭難同行者が 110 番、119 番通報すると共にココヘリに連絡すればココヘリと警察消防が捜索方法を協議
- (4) ヒトココ親機を保有していない警察消防は、ココヘリ捜索ヘリで遭難位置が特定されたらココヘリが警察消防に位置情報を伝え警察消防の救助ヘリ出動

3. 遭難位置特定方法

- (1) 遭難連絡時に貸与品である子機や親機の発信電波を受信する親機を搭載したココヘリ捜索ヘリ出動。ヘリ搭載の親機が遭難者の子機や親機の電波を受信して発信場所に接近。ピンポイントで遭難者の遭難位置を特定。特定位置を警察消防に通報。
- (2) ココヘリ捜索搭載親機は最大 16km 地点より遭難者の子機や親機の発信電波の受信可能。
ココヘリによる遭難者発見実績 5 件あり。

4. 気になる入会金、年間会費（税別）

- (1) 1 台当たり入会金：子機貸与 3000 円、親機貸与 10000 円
- (2) 労山会員は先着 1000 名まで入会金の子機、親機貸与共に 3000 円引き
- (3) 1 台当たり年会費：子機、親機貸与共に 3650 円

5. 捜索ヘリ料金

- (1) 3 回目まで無料。4 回目から有料 1 分 5000 円～10000 円程度

6. 捜索ヘリの活動時間

- (1) 午前 8 時～日没まで（天候不良時を除く。警察消防ヘリも夜間、荒天時は飛行不能）

7. ココヘリ申し込み

- (1) ネットで「労山ココヘリ」を検索して申し込む。労山限定プランが申し込める。
- (2) ポイントが付与されると共に、子機や親機使用の山行登山用品に対して破損や盗難事故の物品補償が最大 5 万円。
- (3) 子機親機ともに又貸し不可。（ココヘリの捜索サービスを受けられるのは申込者のみ）

「ヒトココ」は上記のように、行方不明者を無くすことについては非常に効果が高いものです。（100%を保証するものではありません）且つ、費用負担は大きなものではありません。山で行方不明になってしまう。誰もこんなことを想定して山には挑んでおりません。それでも行方不明事案は後を絶ちません。ご存知の方も多いかと思いますが、行方不明者の残された家族

には多くの労苦が及びます。

- 1.無断欠勤扱いとなり、懲戒の上退職金が出ない恐れがあります。
- 2.住宅ローンの免除まで年月がかかる恐れがあります。
- 3.生命保険の受取まで年月がかかる恐れがあります。

など、徒労に終わった捜索費用の負担に加え、経済的な困難に見舞われることになることが予想されます。そんな悲劇を少しでも減らすことができるグッズとして「ココヘリ」を紹介させて頂きました。

上記ココヘリ説明文 1~7 の文責はやましな山の会青山郁夫です。

青山：12月11日現在、ココヘリ申し込み者は全国で20000人を超えています。労山全国連盟大では847人、京都府連盟大では22人の申し込みです。なおココヘリの詳細は10月25日の各会メール送付資料をご覧ください。



京都府勤労者山岳連盟 組織拡大交流集会に参加して(報告)

平尾繁和

12月14日(金) 午後7時から京都府連盟事務所で組織拡大交流集会がありました。参加が4つの山の会で少なかったのは残念でしたが、2つの会はこれまで登山教室など積極的な会員拡大の取り組みで入会者を多く迎えてきた経験を持つ会で、詳しい取り組みの話が聞けて大変参考になりました。

- 1 連盟組織部から先日開催された全国登山研究集会(11/23・24 愛知県)の報告がありました。私もこの集会には自然保護委員会として参加しましたが、全体会議で組織拡大をしている全国の会からの報告を聞き刺激を受けました。(まとめられたものから一部紹介します)
- 2 京都府連盟の11月末の組織調査の結果、1,000名となったこと。
- 3 参加各会のとりのくみ

西山：ここ2、3年、①「山登りセミナー」（登山教室）、②公開バスハイク、③青年層の公開ハイクを実施。新聞での広報の他、17年はじめてチラシを4千枚つくり会員が登山口で配布(①、②、③を同一チラシに掲載)。クリーンハイクは市民新聞に広報、参加をよびかけた。年3回、新入教室を開催、新入会した人、会員になりたい人に案内状を送りよびかけ(参加の意向、次回案内の必要性等を回答してもらう)。1年で入会者9人。

新入会者に対して、山行部で担当を決め相談窓口になる。

洛中：登山教室、読図教室：17年秋に実施したら参加が少なかったので、18年は春に実施。募集はポスター、チラシ、新聞。新聞で募集すると高齢者の申し込みが多く、チラシ配布に力を入れた(愛宕山の登山口と頂上)。配布者が人を選ぶので若い人の申し込みが多かった。18年4月～17名が入会、内15名が登山教室参加者。(20代1、30代1、40代2、50代4、60代5、70代4)大量入会があったが大量退会も。新入会員へのフォローに力を入れている。9月に新入会員教室、執行委員が中心に1年間担当となり、会の内容等半日座学、アンケートを取って「いきたい山、例会にしたい山」を聞き、山行企画部会へだし優先的に取り入れてもらうよう依頼。担当が名ばかりになっていたので、今後最低月1回はメール等で連絡を取ることにしていく。

左京：毎年高齢を理由に2名減って、HPを見てミーティングに参加して1名が加入という状況が3年続いている。

※全国登山者研究集会 活動レポートから

バビッシュ・マウンテン・クラブ

クラブ員が140人程、7割以上が20~40代

- ・ホームページにスノーシューやボルダー、焚き火、クライミングジム、忘年会などの楽しい雰囲気醸し出す写真を多く掲載
- ・若者の笑顔の写真を多く取り入れる(今風に作り、敷居の低さをアピール)
- ・会名も横文字にして若ウケするようにした
- ・会の名刺を持ち歩き、何時でも連絡できるようにしている
- ・みんなが親切、骨身を削って面倒を見るようにしている、新人にとりこの面倒見の良さが魅力
- ・山岳会の硬い雰囲気を払拭して、何でも自由に話せる雰囲気を心がけている
- ・ピッケル、アイゼン等を使う冰雪入門では出費がかさむので、貸借表を作り入門者の負担軽減
- ・冬季山行の希望者には力があれば積極的に参加を進めている。まずは体験することが大切
- ・山行計画を出すときは必ずみんなに呼びかけるようにし、特定の仲間だけで行くことは禁止。会山行でも個人山行でも誰でも自由に参加が可能
- ・平日山行部を設け、約20人で年間180回の山行を施。日曜が休みでない人にとっても魅力
- ・バックカントリーを受け入れる体制を作っている